

## 三線の音色にあわせて踊る

沖縄県久米島町  
と交流会

中泊町合併10周年と中泊町ビーチサッカー青森県大会20周年を記念して、中里町時代に親交のあった久米島町(旧・仲里村)との交流会が7月18日(土)・19日(日)に行われました。

久米島町からは、<sup>とうばる</sup>桃原秀雄副町長、<sup>きくざと</sup>喜久里猛議会議長、<sup>こうち</sup>幸地猛議員、<sup>たまき</sup>玉城安雄議員と、ビーチサッカ



三線とスコップ三味線の共演



三線の音色に合わせカチャーシーを踊る



一大会に出場する選手ら8人が来町し、津軽地域を観光。18日には小泊地域で、19日は中里地域で交流会に参加しました。

小泊地域での交流会では、スコップ三味線・家元 館岡屏風山氏と一緒にスコップ三味線を体験、その後、沖縄の楽器「三線」が披露され、きれいな音色に会場は聴き入っていました。中里地域での交流会では、ねぶた囃子や沖縄の踊り「カチャーシー」をみんなで踊りました。

桃原副町長は「この記念すべき年にまた交流できて大変嬉しい。今度はぜひ久米島にきてほしい」と話し、町長は「今後も交流を続け、様々な場面で関わりを持ちたい」と熱く語っていました。

## 手を取り合い課題解決へ

明の星短期大学と連携

中泊町と明の星短期大学は、人口減少や少子高齢化などの地域の課題と一緒に取り組もうと、7月14日(火)総合文化センターパルナスで連携協定調印式を行いました。今後は、介護予防の教室、各種公開講座、学園祭での産直市開催などを行い、町がかかえる課題の解決へ向け連携して取り組んでいきます。

式に出席した明の星短期大学の辻昭子学長は「学生が町を訪れ農業体験をしたり、介護福祉の専門科を生かしたりと町に貢献していきたい」、小野町長は「介護福祉の専門科がある短大と介護福祉に力を入れている町。まずは介護福祉の分野での交流から始め、地域活性化につながることを期待している」と語りました。



明の星短期大学の辻学長と握手を交わす町長

